

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	経営戦略研究科・経営戦略専攻
大項目	1 教育研究上の目的
中項目	
小項目	1.0.1 教育研究上の目的
要素	「教育研究上の目的」をグローバル化時代の要請に応えた国際的に通用する高度専門職業人育成に配慮した内容のものとしているか。 「教育研究上の目的」をステークホルダーの意見を反映した内容のものとしているか。 「教育研究上の目的」は、学校教育法第99条第2項の「高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培う」の規定から外れるものではないか。 「教育研究上の目的」を受審校の発行する印刷物等、例えば、学則、入学案内、授業要覧及び履修要綱等に、また、ホームページに掲載し、周知公表を図っているか。
小項目	1.0.2 「教育研究上の目的」の重要な要素
要素	「教育研究上の目的」は、企業等組織のマネジメントに関する高度の専門知識・技能及び基礎的素養を修得する内容のものとなっているか。 「教育研究上の目的」は、学生のキャリア形成に寄与する内容のものとなっているか。 「教育研究上の目的」は、所属教員の教育研究活動の推進に寄与する内容のものとなっているか。
小項目	1.0.3 「教育研究上の目的」の継続的な検証
要素	「教育研究上の目的」を検証する組織的な体制が整備されているか。 「教育研究上の目的」の継続的な検証に必要な資料の収集及び管理の体制を整備しているか。 「教育研究上の目的」の検証プロセスにステークホルダーの意見を聴取する機会を設けているか。
小項目	1.0.4 「教育研究上の目的」の達成に必要な財務戦略
要素	「教育研究上の目的」の達成のために必要な財政的基礎を有しているか。 「教育研究上の目的」の達成のために必要な資金調達戦略を立てているか。 「教育研究上の目的」の達成のために必要な予算措置をしているか。

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

	2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
			2009	2010	2011	2012	2013
BS	1. In order to meet the needs of globalized age, cultivate the efficient business human resources understanding multiple cultures and having high ethical sense in terms of relation with stakeholders. グローバル化時代の要請に応えるため、多文化を理解し、ステークホルダーとの関係において高い倫理観を備えた有能なビジネス人材の育成	→Satisfactory level of the graduates and of the persons in charge of personnel section of the organization that hired our graduates. 修了生の満足度と修了生を雇用している組織の人事担当者の満足度	A	A	A		
IMC	2. Provide appropriate education required for worldclass managerial candidates with focused functional expertise. (国際的に通用する専門領域を持ったマネージャー人材に必要とされる教育の提供)	→a. Number of students from various backgrounds and countries. (様々な経歴と国籍をもつ学生の数)	A	A	A		
		→b. Number and proportion of entering students who have working experience. (就労経験のある入学者の数と割合)	A	A	A		
		→c. Examine and encourage efforts by faculty to conduct and present/publish research and to use their research interests to stimulate their teaching. (教員の研究活動や研究発表への取り組みを把握、促進し、研究成果を活かして教育成果の向上を図る。)	A	A	A		
BS	3. Enhance the linkage with Accounting School. 会計専門職専攻との連携強化	→BSとASの複数教員が担当し、両専攻に共通して提供する科目数	A	A	A		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」		2009	2010	2011	2012	2013
	→	⇒					
	→	⇒					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	グローバル化については、企業経営戦略コースと英語のみで授業を実施する国際経営コースの学生が共通してできるハイブリット科目のSpecial Topics in Finance を2011年度より設けた。
目標2	2013年度には、大幅にカリキュラムを改定する予定であり、現在、種々の情報現を活用して、改定準備を行っている。また、2011年度には、基礎数学やエクセル、簿記会計に関する入幕前のプレコースを、秋学期入学の学生を対象に実施した。 IMC has continued our student intake diversity in terms of countries and backgrounds. We continue to have students from Asia, the Middle East and from Africa and have admitted students from Latin America and North America. We have exchange students from Europe. We continue to admit students with working backgrounds. Our faculty continue to be involved with presenting their research at international conferences and in pursuing international journal publication. 国際経営コースは国籍・経歴において多様な学生を継続して受け入れてきた。以前から受け入れのあったアジア・中近東・アフリカの学生に加え、北米・南米出身学生も入学している。ヨーロッパからは交換留学生を受け入れている。また、社会人経験を持つ学生も継続的に受け入れている。教員は国際学会での研究発表や国際的学術誌への論文投稿をコンスタントに行っている。
目標3	2010年度から、BSとASの合同科目として、「組織管理」、「NPOマネジメント」を開講している。また、2011年度から、担当授業について発表・ディスカッションするFD研修会を、BSとASの合同で行っている。
備考	